



630 奈良市高畑町 奈良教育大学自然教育演習室発行

TEL 0742-27-9207

シギ・チドリ、コミミズク (13)

3月22日 昼

井戸野池では珍しくシギが全部、池の北西の隅でかたまって休んでいました。いつもは池の東側で歩き回っています。見ていると飛んで活動を始めました。セイタカシギは2羽いましたが、そのうちの1羽(一番初めの日にいたらしい方)の翼の後ろの縁に白いところがありました。もう1羽にはありませんでした。ハマシギのなかには胸に少し黒い羽が混じっているのがいました。夏羽になりかけているようです。ハマシギは川や池で冬に見たことしかなく、夏羽は見たことがないので、早く夏羽になってほしいです。



セイタカシギの翼

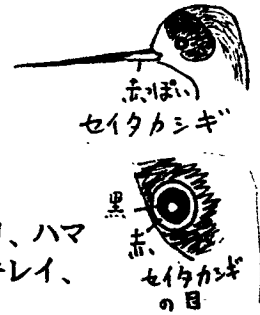
コチドリ(2)、ハマシギ(18)、ツルシギ(3)、セイタカシギ(2)がいました。

廣大寺池はかなり水が増えていて、シギやチドリはいませんでした。カイツブリ、アオサギ、ヨシガモ(37)、ハクセキレイがいました。

3月22日 夕

廣大寺池にはカイツブリ、アオサギ、ヨシガモ(オス1)、ツバメ、ハクセキレイ、タヒバリ、ツグミがいました。昼にたくさんいたヨシガモは1羽しかいませんでした。やはりシギやチドリはいませんでした。

井戸野池にはまたセイタカシギが2羽いました。そのうちの1羽の口ばしのつけねが少し赤っぽいのが見えました。やはり10日に見たのと同じ個体だったのです。もう1羽の口ばしは真っ黒です。目をよく見ると、やはり赤いらしいことが分かりました。



コサギ(1)、コチドリ(4)、イカルチドリ(1)、ケリ、ハマシギ(18)、ツルシギ(3)、セイタカシギ(2)、ハクセキレイ、タヒバリ、ツグミ、スズメがいました。

田んぼでコミミズクを探すと、あるビニールハウスの前のあぜのかげにうずくまっているのが見つかりました。黒っぽい顔をしていました。近づくと飛んで、少し離れたところにまた下りました。そこでは白っぽい顔をしていました。その後、東の方へ飛んで行き、一度田んぼの中の背の低い木(枝はほとんど切られている)に止まった後、また飛んで見えなくなりました。

田んぼにはコミミズクの他にコサギ、アオサギ、ケリ、ヒバリ、ツバメ、ツグミ、ムクドリがいました。

(前田健)

水上池付近の鳥 (54)

3月23日 朝

ウワナベ池にはカイツブリ、マガモ、カルガモ（少）、ヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ（メス2）、キジバト、アオバト、ツバメ、ジョウビタキ（メス1）、ツグミ、ウグイス、カワラヒワがいました。ウワナベ池にはいつもカルガモが少ないですが、この日は特に少なかったです。

コナベ池に珍しくバンがいました。

水上池にはミコアイサのメスが2羽いました。カンムリカイツブリはいませんでした。

カイツブリ、コサギ（1）、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、ミコアイサ（メス2）、バン、オオバン、ケリ、タシギ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ビンズリ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、メジロ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。

3月23日 夕

水上池にはミコアイサのメスが1羽いました。

カイツブリ、アオサギ、マガモ（少）、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、ミコアイサ（メス1）、バン、オオバン、ケリ、キジバト、カワセミ、ツバメ、ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、オオジュリン、スズメ。

ウワナベ池にはカイツブリ、アオサギ、マガモ、カルガモ（少）、ヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ（メス2）、キジバト、ツバメ、ツグミ、カワラヒワがいました。 （前田健）

タヌキ再び教育大に姿を現す

3月23日朝、いつものように教育大学のタヌキの溜め糞場を形式的にのぞいてみました。最近ではもうすっかりあきらめて、ただただ義務感だけで行っていたのです。ところが、今日は違いました。あったのです。糞が2種類、固いのと柔らかくベチョットとしたのが、ちゃんと2個体分です。ということは、先日大学の近くで輪禍にあったタヌキ（自然情報第87号）は大学に出没していた個体とは別のタヌキだったのか、よかったとまで思いました。しかし、よく見るとその固いのが今まで見ていたのと様子が異なります。固い方が今までのに比べ明らかに大きいというか太いのです。そこで、ちょうど10日間も溜め糞場に新たなのが見つからなかったこととあわせて、以下のように推論しました。

やはり、あの輪禍にあったタヌキは教育大学に来ていたタヌキである。いつものように2匹、オスとメス、で行動していて、そのうちのオスが事故にあった。メスはショックでいつものような行動パターンをとるのを止め、大学校内に来なかった、あるいは出没してもいつものようなコースをとらなかった。したがって、溜め糞は増えなかった。しかし、10日もたち、ショックから立ち直り従来の行動パターンをとるようになったし、また、新しいパートナーが見つかった。それは前よりも体が大きいオスである。さて、事実はどうなのであろうか？

いずれにしても、バス道路にフラフラと出歩くのは危険が多すぎる。このままではまた同じような事故が起きるのは必至である。何とかそれが避けられるような対策を考えねばなるまい。 （前田喜四雄）